

第一九八回ペン川柳会

令和二年十一月二十三日

お題「落」

■ 細谷 (損得)
そんとく

落書きを億円かけて落札し
落ち武者が票を数えて何千里

■ 西川 (酔雅)
すいが

呆け進み落とした物もすぐ忘れ
落とし物呆けて何だかすぐ忘れ

■ 浜田 (我々好)
ウイスキー

マスク美女落としてみたら獅子っ鼻
こんな句が入選だとは洒落くせえ

■ 松谷 (零門)
れいもん

落とし物妻は目方でオレ財布
ノーボギー落雷中止泡と消え

■ 塚田 (拿々)
だだ

落ち目でもオレより辛い妻元氣
落語会落ちが分からず苦笑い

■ 三春 (火酒)
ウオツカ

老いてなお落第の夢震度四
願掛けの星は落ちてもツキ落ちず

■ 安藤 (晃二)
てるつぐ

落雁は干菓子に非ず池に降り
水落ちて竹の快音鹿威し

■ 稲宮 (井波) いなみ

G A F A 誇る飛ぶ鳥落すーTカ
是非落せ大間まぐるだご祝儀だ

世話人 塚田 實 (拿々) ただ

■ 曾山 (酪帝) めいてい

失敗を糧にしないで落ちこぼれ
戦時中落穂拾って飢えしのぐ

■ 八木 (明迷) めいめい

邁進に落日招き都構想
ハンカチを落とす女性は絶滅種

■ 山縣 (安兵衛) やすべえ

落葉舞う冬にコロナの不況風
落研や落第覚悟の落ちづくり